

「オーケストラ」

(2015)

「MUSIC 音楽」のまとめ・整理を暫く続けていたが、約400曲近くのリストが完成したところで、この終わりの無い徒労の虚しさに気付き始め、「一旦手を置く」とにした!しかし最近注目を集めているのは、「若い頃触れた音楽」を老年期に聴くことが、老化しつつある脳を活性化させ、認知症の予防になるという説である・・・もう聴くことだけに専念しよう!折しも昨年あたりから「ハイレゾ」音楽の普及が本格化しつつある・・・新しい仕事の準備だ!

そして、次は再び「映画」に戻ろう!ここ1年は「映画」のBR(ブルーレイ)録画による収集・整理に明け暮れた。昔から「映画」は好きで、VHS録画が定着し始めたひと昔前から、僕なりの「映画名作集」をまとめ、数百本近いVHSの束がダンボール数箱に収まっていたのが、世は一気にデジタル時代に入り、トホホ!涙を飲んで大量のVHSの入ったダンボール箱を市の焼却場に持込み、火口に投げ込み・焼却した。そしてこの歳にして再び始まったBRによる映画の再収集・・・早くも千枚を超えるディスクの山になつたが、昔のVHSに比べれば収納量は1／10となつたが、驚くべき量とその日々の徒労を少々反省しながらの毎日である。最近は新聞広告でも「映像と・・友」社の映画DVD通販もあり、結構豊富で安価なDVDは手に入る(画質は良くない)。

又ツタヤのメンバード、何の労苦もなく安価にレンタルも出来るのだ

が・・・？ どうも僕の場合は、再び観る為に録画しているのではなく、いつの日か・・という強い思いが強迫観念として頭にあるようなんだ。しかし定年後もう10年にもなるが、「ユックリと・・・」等という心境にはならず、依然として心は少年のようにハイ状態のままである。最近は、「いつかゆっくり観よう・・・」から脱し、「子や孫の為に・・・」と変化し始めた。・・・とは言え、子や孫たちに伝えたとしても、おそらくはデジタル技術の更なる進化により、「この僕の「BR映画全集」もかつてのVHS集と同じく、焼却場行きになるのは確実だと思われる。現に、早くも4K・8Kテレビ放送の時代は目の前だし、3年もすれば、千枚のBR盤に取つて変わるもつと簡便なメディアもいすれ出現するのだろう。

最近はそれより何より、月々僅かの視聴料で何万本もの映画を「何時でも」自由に選択視聴できるネットTVさえ出始めた。一体何のために集めているのだ？

そんな膨大な録画リストを眺め直している時、その中の一枚にふと目が止まった。『オーケストラ』(原題：The Concert 2009 フランス映画)という映画である、気紛れに観てみたが、何とこれが何年振りかに味合う感動ものだった。

内容は、かつてのボリショイ交響楽団だが、26年前、時の政府のユダヤ人排斥政策に巻きこまれ、ある者は収容所送りとなり、多くの楽団員

達は解雇され、これに反対した天才指揮者も職を失い、劇場の掃除係として糊口を凌いでいたが、ある日一通のFAXを曰にし、パリでの公演のチャンスを知り、かつての仲間たちを集めオーケストラを結成し、パリのシャトレ座で演奏するというとんでもない暴挙に出ることとなる。そして選んだ曲が、チャイコフスキーの『ヴァイオリン協奏曲』で、かつてボリショイ劇場での最後の演奏会で政府により途中中断され、指揮棒を折られた因縁の曲であった。ソリストに指名したのは、パリの若き女性ヴァイオリニストだったが、彼女は何故自分なのか、そしてかつて天才といわれ、忽然として音楽会から姿を消した指揮者からの指名の訳を知る由もなかつた。

そしてついにコンサート当日を迎えるが、長い間のブランクをして満足なりハも出来ず、最初のオーケストラの冒頭部分の演奏は酷い有様だったが、彼女の「ヴァイオリン・ソロ」が始まつた瞬間、楽団員全員は突然、「或る事」に気付かれる・・・そしてオーケストラ全体に音楽の神が降臨し、神懸かりの感動的なヴァイオリン協奏曲が演じられる事となる。そして終盤十数分間のコンサートのシーンは圧巻で、身震いさえする、更にその中に織り込まれる26年前の楽団の演奏のシーン、そして冬の収容所で雪の舞う中で、幻のヴァイオリンを抱え、カデンツアを演じて死を迎える若きヴァイオリニストの「左指のビブラートヒトリム」のシーン等が暗示的で感動的なオーバーラップとなる。

「」の映画のもつ一つの主役は何と云つても、チャイコフスキーの「ヴァイオリン協奏曲」である。ロシアの大地を思わせる叙情的で優美で大らかな旋律、又ある時には、生きる苦惱と悲しみを耐えるよつた悲壮感、そして最後は、人間の勇気と意志と尊厳を称え、振り絞るように奏でられる最終章の「なんどドラマチックな」とか！ 人間の命のドラマを彩ってくれるのは他でもないチャイコフスキーの名旋律・名演奏である。

・・・イイですね！ 音楽として映画って、本当にイイですね！！

閑話休題

マイ音楽と映画 ベスト10

- (1) カサブランカ
- (2) ショーン／遙かなる山の呼び声 (V. ヤング)
- (3) ドクトル・ジバゴ／愛のテーマ (M. ジャール)
- (4) ゴッドファーザー／愛のテーマ (N. Rota)
- (5) リオ・ブラボ／皆殺しの歌 (D. ティオムキン)
- (6) 地獄の黙示録／ワルキューレの騎行 (C. コッポラ)
- (7) 第三の男／ハリー・ライムのテーマ (A. カラス)
- (8) いそしき
- (9) ライムライト／テリーのテーマ (C. チャップリン)
- (10) ひまわり／(H. マンシー)

桜満開の某日、同じ町内の茶飲み友達（M氏：原子力関係のベテラン技術者）と花見談義「福島第一原発の圧力容器が転倒の恐れ・・・」が話題に上る。日本沈没・消滅の恐れあるのに、何と静かで穏やかな『日本』？